



# 福袋

Image photo

福袋と言えば、気になるのが「お値段」と「中身」についてです。決して手が届かなくても……高額福袋発売のニュースを聞くたびに、「中身はいったいどんなものか!？」と気になってしまいますよね。

■思い切って購入しちゃおう!  
超高額福袋とは

現代では、多くのお店が用意している福袋ですが、その歴史は意外と浅いもの。初めて登場したのは、江戸時代だったと言われています。現在の大丸百貨店の前身である大丸呉服店が、年始めに「端切れ」を袋に詰めて販売しました。その中には「金の帯」が入っているものがあり、これが「当たり」と言われていたそう。

明治に入ると松屋、松坂屋、そして三越百貨店などが、こぞって福袋を販売するようになりました。その流れは年々華やかになっていき、現代に至るといわけですね。

■意外と浅い!? 福袋の歴史

お正月の風物詩と言えば、おせちにお年玉、お雑煮に初詣……そして忘れてはいけないうのが「福袋」です。たかさんの「福」が詰まった袋は、非常にお買い得! 一年の最初のショッピングイベントとして、楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。そんな福袋について、知られざるトリビアを紹介します。

知ってる?  
お正月に欠かせない「福袋」のトリビア

近年では、福袋は新年の初売りイベントの目玉となっています。お気に入りの店舗の福袋を求め、大行列に並ぶ方も少なくありません。そうした消費者の興味関心を惹きつけるため、福袋の多様化が進んでいます。ネット予約注文できたり、あらかじめ中身を確認できたり……。確かに「失敗しない」という点では嬉しいものですが、なんだかちょっと物足りない気も。福袋には本来、「当たるも八卦、当たらぬも八卦」の気持ちで楽しむ意味合いもあったはず。ときには原点に戻って、福袋ならではのドキドキワクワク感を楽しんでみてはいかがでしょうか。

■多様化する福袋……しかしときには原点に戻って

過去に発売された福袋の中には「販売価格1億円」なんていう、強気の価格設定のものも!

ちなみに中身は、高級車と宝飾品のセットでした。ここまでくると、庶民にはもう、本当にお得なのかどうかわかりません。本当に売れたのかどうか、気になってしまいます。

## 毎日の健康な暮らし

堺市美原保健センター 堺市美原区黒山782-11 TEL 072-362-8681

# 健康はお口から～あなたの歯ぐきは大丈夫?～




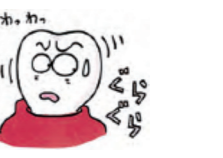



★成人期以降、歯を失う主な原因は歯周病です

歯の生活習慣病といわれる歯周病は、歯を支えている歯肉や骨の病気です。むし歯に比べて痛みなどの自覚症状が出にくく気づくのが遅れがちです。20歳代からかかる人が増え始め、35歳以降に急増し、最終的には歯を失う恐ろしい病気です。また、最近では、糖尿病・脳梗塞・心臓病などの全身の健康に影響を及ぼすこともわかってきました。歯周病を予防して、いつまでもご自分の歯で食事を楽しみましょう。

★歯周病の主な原因は、口の中の細菌です

歯と歯肉の境目の溝(歯周ポケット)の中にある細菌(プラーク・歯垢)が主な原因です。また、喫煙や糖尿病などの全身的な病気や、歯並び、歯のかみ合わせなども関係しています。

★Let's Try セルフチェック ～日頃、確かめることの少ない歯ぐきの健康。気になることはありませんか～

<input type="checkbox"/> 朝起きた時、口の中がネバネバする	<input type="checkbox"/> 歯が浮いた感じがするムズムズする	<input type="checkbox"/> 口臭が気になる	<input type="checkbox"/> ぐらついている歯がある
			
<input type="checkbox"/> 歯ぐきが赤くはれている	<input type="checkbox"/> 歯ぐきから出血する	<input type="checkbox"/> 歯と歯の間に食べ物が挟まる	
			

一つでも、チェックがついた人は、注意が必要です。かかりつけの歯科医院で歯周病の検診を受けるとともに、歯みがき習慣を見直しましょう!

★上手な歯みがきのポイント～今日から始める少しの工夫で、歯周病は予防できます～

- 毛束が小さ目の歯ブラシを選びましょう
- 歯ブラシの毛先を、歯と歯ぐき目・歯と歯の間に届かせましょう
- 歯ブラシは、軽い力で、小さく横に動かしましょう
- 歯と歯の間は、デンタルフロス・糸つきようじ・歯間ブラシを使ってみがきましょう
- 就寝前の歯みがきを実行しましょう



歯間ブラシ

歯ぐきを傷つけないように、鏡を見ながらブラシを歯と歯の間にゆっくりと差し込み、前後に小刻みに動かして歯垢を取ります。ブラシの毛先についた歯垢を洗い落としながら、常に清潔な状態で使用し、使用後は水ですすぎ洗いをし、よく乾かしましょう。

★歯間ブラシは自分にあったサイズを選びましょう。使い方は、歯科医師・歯科衛生士に相談しましょう